

令和3年度病害虫発生予報第7号

長崎県病害虫防除所長

【予報の概要】

農作物名	病害虫名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
大豆	吸実性カメムシ類	やや少	やや少
ばれいしょ	アブラムシ類 ジャガイモガ ヨトウムシ類 (防除情報第15号)	やや少 やや少 多	やや少 やや少 多
いちご (本圃)	うどんこ病 炭疽病 (<i>G. cingulata</i>) アブラムシ類 ハダニ類 ハスモンヨトウ	並 並 並 並 並	並 並 並 並 並
ブロッコリー	コナガ ヨトウムシ類 (防除情報第15号) オオタバコガ	やや多 多 やや少	やや多 多 やや少
かんきつ	かいよう病 緑かび病、青かび病 ミカンハダニ アカマルカイガラムシ カメムシ類	多 並 少 並 少	多 並 やや少 並 少

【発生予報】 本文の () 内は平年値

大豆

1. 吸実性カメムシ類

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 10月前期の巡回調査(9筆)の結果、寄生株率は0.4%(1.3%)、株当たり虫数は0.00頭(0.01頭)、発生圃場率は11.1%(19.4%)であった。

イ 10月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、寄生株率は14.0%(30.5%)、株当たり虫数は0.1頭(0.6頭)であった。

ばれいしょ

1. アブラムシ類

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

10月前期の巡回調査(20筆)の結果、寄生株率は0.4%(1.0%)、発生圃場率は15.0%(15.6%)であった。

2. ジャガイモガ

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

10月前期の巡回調査(20筆)の結果、被害株率は0.4%(0.8%)、発生圃

場率は20.0%（14.4%）であった。

3. ヨトウムシ類

令和3年10月13日付け**病害虫発生予察防除情報第15号**による。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

10月前期の巡回調査（27筆）の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

2. 炭疽病 (*G. cingulata*)

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

10月前期の巡回調査（27筆）の結果、発病株率は0.0%（0.1%）、発生圃場率は3.7%（8.0%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 育苗後期の長雨や大雨の影響による感染で、定植後の発病が懸念されるため、圃場の見回りを徹底する。

イ 発病及び枯死した株は、見つけ次第速やかに圃場外に持ち出し、圃場内及び周辺に放置せず、適切に処分する。

3. アブラムシ類

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

10月前期の巡回調査（27筆）の結果、寄生株率は1.5%（1.7%）、発生圃場率は22.2%（24.4%）であった。

4. ハダニ類

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

10月前期の巡回調査（27筆）の結果、寄生株率は4.2%（3.7%）、発生圃場率は33.3%（22.5%）であった。

5. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

10月前期の巡回調査（27筆）の結果、食害株率は6.2%（6.6%）、発生圃場率は63.0%（60.6%）であった。

ブロッコリー

1. コナガ

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

10月前期の巡回調査（12筆）の結果、寄生株率は10.0%（3.1%）、株当たり虫数は0.2頭（0.1頭）、発生圃場率は66.7%（30.6%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 幼虫は齢が進むと薬剤の効果が低下するので、早期発見に努め若齢幼虫期に防除を行う。

- イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統薬剤（令和3年長崎県病害虫防除基準P240～243の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の連用を避け、ローテーション散布する。なお、ジアミド系薬剤で効果が低い個体群が県内で確認されているため、殺虫効果の低下が疑われる場合は別系統の薬剤を散布する。
- ウ 今後定植する場合は、育苗トレイでの灌注や粒剤の株元処理等による防除を行う。
- エ 発生が多い圃場は、周辺圃場への発生源になるため、収穫終了後は速やかにすき込む。

2. ヨトウムシ類（ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ）

令和3年10月13日付け**病害虫発生予察防除情報第15号**による。

3. オオタバコガ

- (1) 予報内容：発生程度 やや少
- (2) 予報の根拠
 - ア 10月前期の巡回調査（12筆）の結果、発生を認めなかった（寄生株率 0.3%、発生圃場率 5.2%）。
 - イ オオタバコガのフェロモントラップ（諫早市）による誘殺数は、平年より少なく推移している（図）。

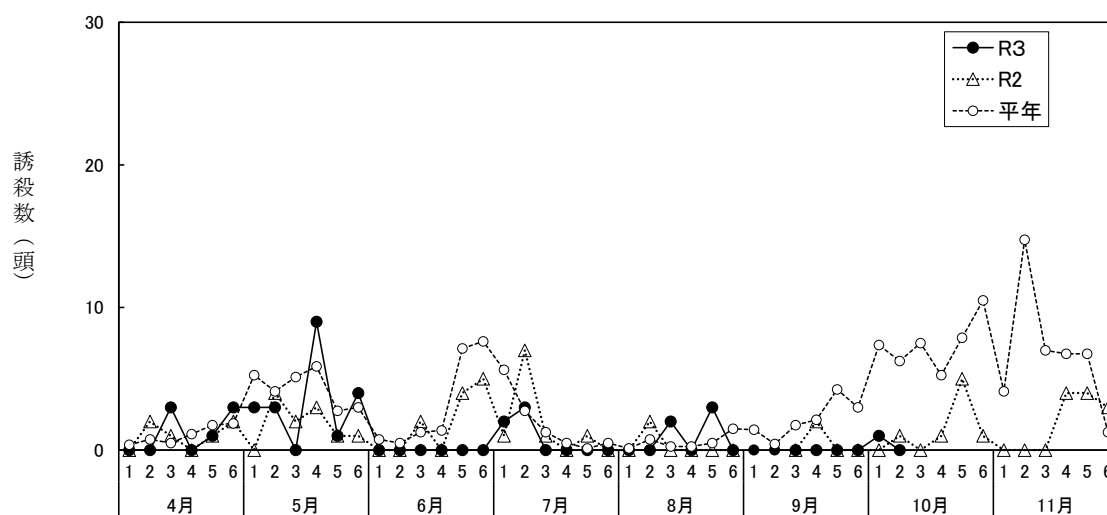


図 オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺状況（諫早市小船越）

（月・半旬）

※R2 9月1、2半旬台風のため欠測

かんきつ

1. かいよう病

- (1) 予報内容：発生程度 多
- (2) 予報の根拠
 - 10月前期の巡回調査（36筆）の結果、発病果率は0.4%（0.2%）、発生圃場率は25.0%（4.8%）であった。
- (3) 防除上注意すべき事項
 - ア 発病枝や葉は伝染源となるのでできるだけ除去する。
 - イ 強風による傷から感染しやすいので、今後の気象状況に注意し、強風雨が予想される場合は事前に薬剤散布を行う。

2. 緑かび病、青かび病

- (1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

10月前期の巡回調査(36筆)の結果、発病果率は0.0%(0.0%)、発生圃場率は2.9%(3.1%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 胞子が形成された摘果果実や樹上の発病果は見つけ次第、取り除き処分する。
- イ 雨の日や雨の翌日に果実に水滴が残っているときは収穫を行わない。また、果実に傷を付けないように収穫、運搬、選果を丁寧にする。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 10月前期の巡回調査(36筆)の結果、寄生葉率は1.0%(3.6%)、発生圃場率は14.3%(31.5%)であった。

イ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

4. アカマルカイガラムシ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

10月前期の巡回調査(36筆)の結果、寄生果率は0.1%(0.3%)、発生圃場率は2.9%(3.4%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

園地をよく観察し、多発園においては使用時期、使用回数等、使用基準を遵守し薬剤防除を実施する(ただし、収穫間近の園や品種を除く)。

5. カメムシ類

(1) 予報内容：発生程度 少

(2) 予報の根拠

フェロモントラップの誘殺数は、各地点とも9月以降、平年より少なく推移している(図)。

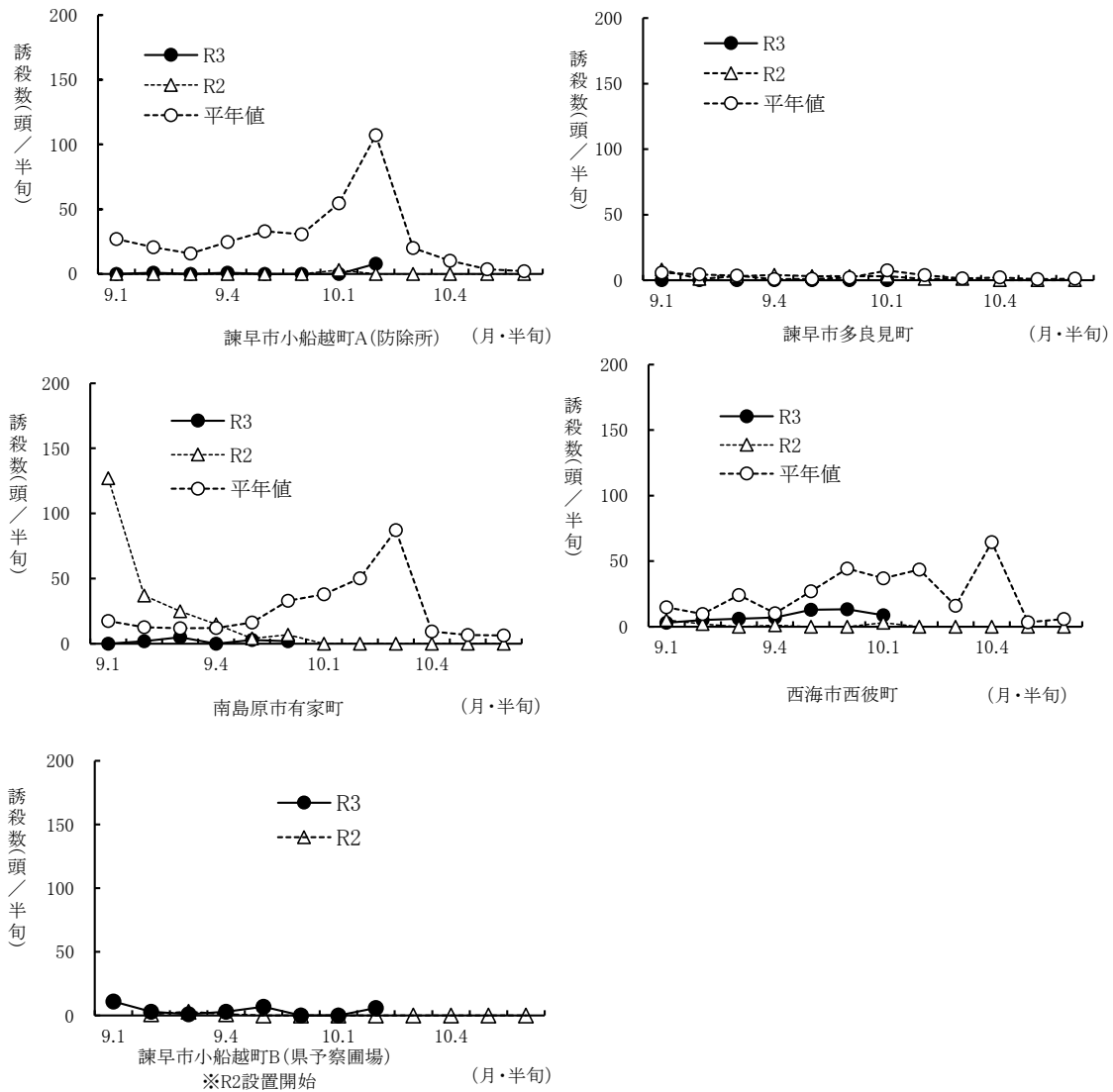


図 チャバネアオカメムシ・ツヤアオカメムシの誘殺状況(黄色コガネコール)

(3) 防除上注意すべき事項

- ア カメムシ類は園によって集中加害するおそれがあり、また、山林に近い園ほど飛来が多くなる傾向にあるので、果樹園の見回りを徹底するとともに、飛来や被害果を認めたら早急に防除を行う。
- イ 果樹カメムシ類は主に夕方から夜間に飛来して果実を加害する傾向があるため、薬剤散布は夕方に行う。また、薬剤散布に当たっては使用時期、使用回数等を確認し、使用基準を遵守する。

【参考】

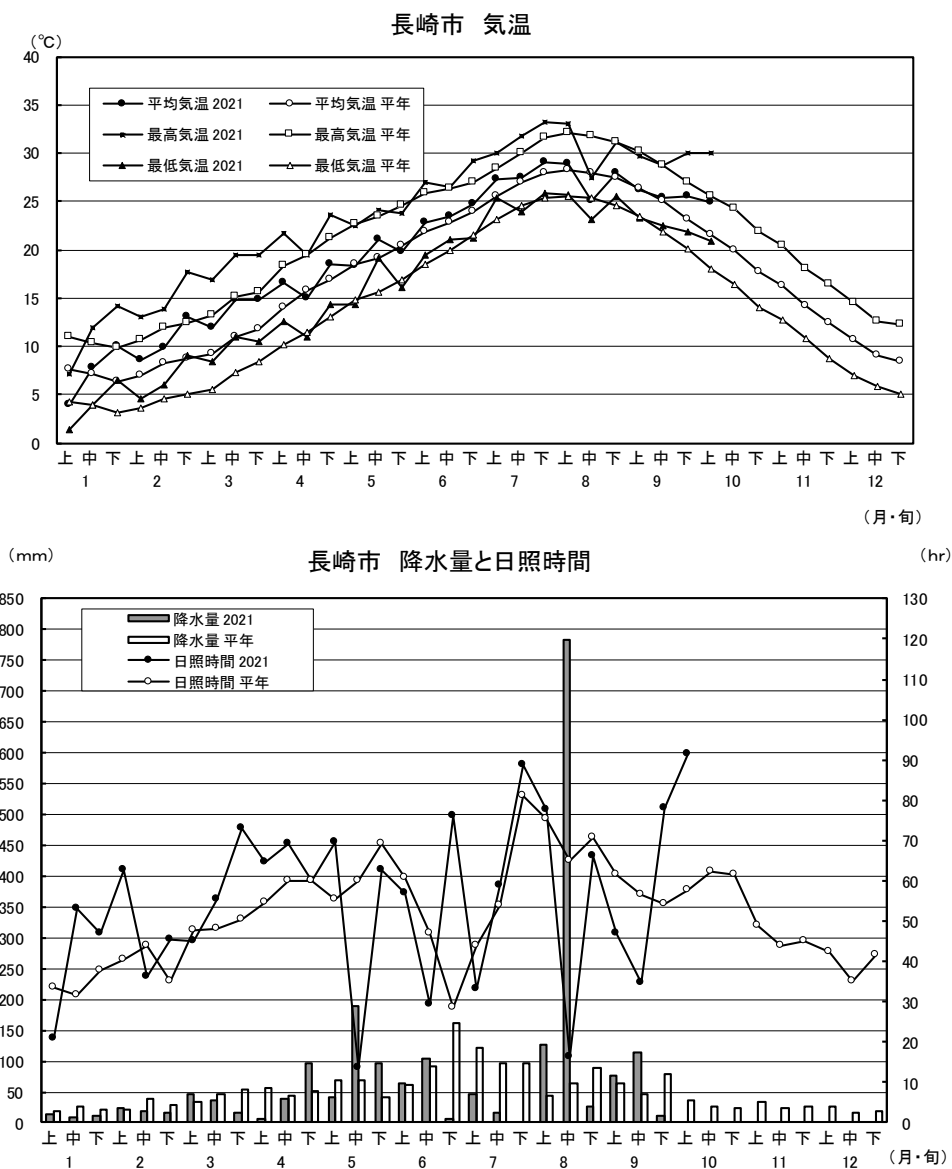
(令和3年10月7日発表 1か月予報 福岡管区气象台)

要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	10	30	60
降水量	30	40	30
日照時間	40	40	20

※予報対象地域：九州北部地域

令和3年の気象経過 (長崎地方气象台)



- 長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。
「長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室
(長崎県病害虫防除所) ホームページ」アドレス：<http://www.jpnpn.ne.jp/nagasaki/>
- この情報に関するお問い合わせ
長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室
(長崎県病害虫防除所) TEL：0957-26-0027

